

フランスの植民地支配に抗する —独立を掲げたアルジェリア民衆の闘争と革命

北アフリカのマグリブ地域（西方イスラーム地域）に位置するアルジェリアは、フランスの旧植民地のなかでも直接的な植民地支配を長期に亘り受けた後、8年に及ぶ武装闘争を経て独立を果たしました。その独立戦争について、経済史を専門とする見地から研究を行ってきたムハンマド＝サーラフ・ブークシユール氏をお招きし、お話を伺います。

日 時 2026年3月14日（土）

使用言語 日本語、仏語（講演は仏語、ただし日仏の逐次通訳あり）

場 所 高知大学朝倉キャンパス 共通教育3号館 1階コミュニケーションルーム

事前申込 不要

プログラム 12:45 開場

13:00～13:05 開会

13:05～13:15 日本語によるイントロダクション

渡邊祥子（東京大学東洋文化研究所）

13:15～14:35 「アルジェリア独立戦争 1954–1962:
民衆による革命と反植民地主義闘争」

ムハンマド＝サーラフ・ブークシユール
(アルジェリア・シュレフ大学)

14:35～14:55 質疑応答

14:55～15:00 閉会

FAYOLLE

講演者 ムハンマド＝サーラフ・ブークシユール (Mohammed-Salah Boukechour)
アルジェリア・シュレフ大学人文社会学部教授（専門は経済史）。

主 著 *De Dietrich à Ferrovial: destin d'une entreprise de la colonisation à l'indépendance de l'Algérie* [ド・ディートリヒからフェロビアルへ：
アルジェリア植民地期から独立までの一企業の軌跡] , *Alger : Dar Kortoba, 2016.*

共催：

科研費基盤（C）「イスラーム教育の社会的機能に関する国際共同研究：後期植民地期アルジェリアの
事例」（代表：渡邊祥子、課題番号24K04282）

高知大学ユニット的ボトムアップ研究プロジェクトⅡ「「フォーラム型知の拠点」としての高知大学の
構想と実践」（代表：岩佐光広）